

「夢に向かって」

～大切なものは目に見えない。心の目～

ピリピ4：4～13

■ 夢に向かって

私たちは夢に向かって歩む時にさまざまな困難に合うかもしれません。断念しそうなこともあります。しかしその時、誰かの声を聞いて正しい道に戻らなかったり、あきらめてしまったりするとその夢は現実になることはありません。しかし私たちの決断が重要です。どのような道を進んでいくとしても無駄なものはありません。また夢に向かっていく時に、私たち一人で行くのではなく周りに大きな影響を与えていきます。ですから私たちは間違った決断をして夢をあきらめるような、壊してしまうようなことを止めないといけません。ですから私たちが間違った決断をしないための前提として夢を持つ必要があるのです。この夢がなくなり見えなくなったりすると人はほしきままに振舞うと聖書に書いてあります。自分の欲するままに生きてしまうのです。私たちが間違った方向へ行ってしまう時、私たちに語りかける声を聞くことができるでしょうか。それが大事なことです。私たちの人生を振り返ったとき、教会に来る以前を思い出すと180度方向が変わっている人もいます。神様は私たちの人生を変えようと様々な人を遣わしてくださいます。私たちがこれからキリストに出会う人々のために何か自分にできることをしていきたいと思うように変えられてきたと思います。その原点はイエスの十字架であり、「わたしのことで泣いてはいけません。むしろ自分自身と、自分の子どもたちのことのために泣きなさい。(ルカ23：28)」と語られた言葉なのです。私たちに教会に来るきっかけを作った人がいるのです。また、私たちは現在どのような人と接しているのでしょうか。その人に対して教会にくるきっかけを作っているのでしょうか。その時、私たちはどのような思いを持っているのでしょうか。あの人にはだめだ、もう無理だと否定的な言葉を口にしていますか。この言葉が大事なのです。私たちの言葉によって周りで苦しんでいる人を良くすることができるでしょうか。反対に私たちに問題があれば、それを解決できる人のところへ行って話しをするようにしなければいけません。同情されるだけの会話だけでは解決されず良くなれないのです。私たちは「分かる～」という人と話すのではなく、「祈りましょう!」という人と話しをしていきましょう。そして元氣のない人の話を聞くときも「分かる～」ではなく、「一緒に祈ろうよ」と神様に焦点を合わせて会話をしましょう。そのためには私たちは夢を描き、進まなくてはならないのです。

■ 自由を取り違えていませんか

創世記でアダムが最初にしたことというのは神様が造った動物に名をつけることでした。名をつけることというのは大きな意味があるのです。その名を通して夢を描くようにしているのです。ですから夢を描くことをしなくなったら私たちの目的が果たされていないこととなります。それができていなければ、敵である悪魔に奪われてしまっただけです。今日から取り返して夢を描いていきましょう。時折、夢が描けないようなことが起こるかもしれませんが。教会きたのはそのような状況の時に神に創造された姿へ戻るためののです。

■ ①一人で祈る場所ゲッセマネ

私たちの心は道ばたのようになっていないでしょうか。踏み固められて芽を出すことができなくなっているのでしょうか。このメッセージを聞いて夢を持ちたい!夢を持っています!と思える時は道ばたのようではないと思います。しかし夢を描くことができなくなっているのであれば、道ばたのようになっていないかもしれません。特に踏み荒らされたと思っている人の言葉は聞くことに難しさを感じます。私たちは今まで生きてきた中でこれが正しい道だ、この方法で生きていくと決めてしまっていることがあると思います。それを持ったままではたとえ

種が蒔かれても実を出すことができないのです。神様のしようとするのは私の決断次第で実を結ぶこともできず、破壊してしまうこともあります。また隣人の働きを邪魔することができるのも私自身です。敵である悪魔が直接働くのではなく、私を通して働くのです。ですから周りにどのような影響を与えるのか私たちはいつも神様の共にいて良い影響を与えていかななくてはなりません。成長していく中でいぼらのように妨げてくる時があっても神様と共にいて夢を描き、正しい決断をしていきましょう。そうするには(ピリピ4：4～8) 私たちは主にあっていつも喜びに満たされていきましょう。また感謝できない時にこそ主を見上げて感謝をしていきましょう。

■ ②目に見えないことを大切に!!!

私たちはこのように聞いても目に見えることを大切にしていまいがちです。目に見えないものは心の問題です。神様は形に残ることをする前に目に見えないものすなわち祈ることを大切にしながら伝えてくれています。祈りよりも先に行動することがないようにしなければいけません。また愛すること、赦すこと、信じることも目に見えないものです。私たちはこれが大切なのは理解しています。現実の世界の中で目に見えるものに囚われがちですが、今日、もう一度目に見えないものに心を向けて大切にしていきたい。日本の成長期を支えた企業の中に創業者がお母さんのため、周りの人のために何とかがしてあげたいという理由から開発していき、礎を築いた人がいます。このように周りの人を思う気持ち=目に見えないものを大切にしていかなければいけません。(ローマ9：30～33) ユダヤ人たちは律法を守ることを目に見えないことにこだわってしまい、守れない人を裁いていたのです。ですから心がどのような思いだったとしても目に見えることが大切になってしまいました。イギリスの首相であったグラットストーンは愛の精神、自己犠牲の精神、真実の精神、活力という4つの方針を立ててイギリスを治め、変革していきました。彼は信仰者として礼拝を重んじる敬虔な方でした。だからこそ、成し遂げられたのです。このように目に見えないことを大切にしていきたい。

■ ③聴くことと、あきらめないこと!

私たちはあきらめやすいタイプでしょうか。難破してしまった船がいました。船員もいて絶体絶命の危機でした。しかし船長が「あきらめない!絶対助かるから」と言い続けました。そうしたら、その船から一人も犠牲者を出すことなく助かったという話があります。その時、船長さんは神に祈り、そして神様からも「信じろ!助かるから!」と声を聴いていたそうです。だからこそ、あきらめずに進むことができました。私たちに聴く耳がありますか? 私たちにとって聴かなくては何かすることはできません。イエス様もその公生涯の中で祈り、神の御心を聴き、歩んでいました。十字架を前にしてもゲッセマネで祈っていました。先日のメッセージでも祈ることが語られていました。私たちは祈った後、聴きましょう。そして実行していきましょう。私たちはどこへ向かっていくのでしょうか。それは私たちの中に志として与えて下さった夢に向かって進むのです。ですから今日、私たちは夢を実現させていくために、「祈って、聴いて、実行」していきたくと思います。